

# 完了報告書

記入年月日 2026年2月16日  
採択団体名 きのくに活性化センター

## ■事業概要



基本情報	
事業名	高校生をコアとした被災地と未災地の交流による地域防災力向上事業
事業内容	事業内容①:地域協働防災訓練の実施 事業内容②:高校生同士の交流(能登) 事業内容③:知見の冊子・動画化 事業内容④:知見の冊子・動画の配布
事業背景	本事業を実施する紀伊半島地域では、半島地域が抱える諸課題により、想定される南海トラフ巨大地震等の災害からの復旧・復興の遅れが懸念される。その諸課題とはすなわち、都市部との距離とアクセス上の課題、高等教育機関の少なさによる若者(大学生)の不在、都市部よりも加速化する人口減少と少子高齢化である。この課題に対処するため、本事業地域である和歌山県串本町にある和歌山県立串本古座高校(以下串本古座高校)の高校生を防災リーダーと位置づけ、串本町の防災力を高めることをねらいとしている。
コミュニティ設立の経緯	2025年7月30日のカムチャッカ地震は遠地地震ではあったものの、津波警報が発表されても「逃げない住民」が多く居り、その理由のひとつが「あきらめ」であったことが挙げられる。行政としてはさまざま防災対策を実施している串本町でもそのような現実が多かったことを受け止め、防災を呼び掛ける“防災リーダー”に高校生を据えることで、「孫世代からの呼びかけ」を通じた地域の防災意識の向上を目指し、本コミュニティを設立した。
本事業に関する過去の取り組み内容	本事業を提案するきのくに活性化センターは、和歌山県南部の自治体、商工会議所、JA、和歌山県、和歌山大学が連携している地域活性化団体である。本事業を実施する串本町とは、地域資源のマップづくりや青少年懸賞論文事業などでの連携実績がある。また、センターを構成する和歌山大学と串本古座高校では、社会教育の手法を用いた新しい学びでの連携などもある。センターを通じた“顔が見える連携”の中で、上述したような“地域防災”に関する課題が出てきたため、コミュニティを設立した。なお、センターとしては過去に自治体の「公共建物耐震診断業務」や「川のハザードマップの作成」を行ったことがある。
事業体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>きのくに活性化センター:事業内容①～④の統括業務 2名</li> <li>和歌山県立串本古座高校:事業内容①の企画調整・実践、事業内容②の企画調整・引率 2名</li> <li>東武トップツアーズ(株):事業内容②のコーディネート・実行 1名</li> <li>(株)crop:事業内容③の冊子・動画作成 2名</li> <li>串本町堀・笠嶋区(地元地域):事業内容①企画調整・学校地域連携、事業内容④での配布・展開 1名</li> <li>串本町総務課防災・防犯グループ:事業内容①の訓練の企画調整・実施、事業内容④での配布・展開 3名</li> </ul>
全体スケジュール	<p>&lt;8月下旬～9月&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内閣府コミュニティ防災教育推進事業への提案に関する関係性調整・提案内容打ち合わせ</li> </ul> <p>&lt;10月中旬～下旬&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域協働防災訓練の中身と運営、能登訪問行程に関する打ち合わせ</li> </ul> <p>&lt;11月中旬～下旬&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域協働防災訓練(11月10日)の実施</li> <li>石川県立飯田高校生(以下飯田高校)による和歌山県立串本古座高校への訪問。ワークショップを通じた高校生の交流(石川県事業として)や地域協働防災訓練にも参加。</li> <li>能登訪問における「高校生交流」の方法、タイムスケジュールの打ち合わせ</li> </ul> <p>&lt;12月上旬～下旬&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和歌山県立串本古座高校生(1年生)による石川県立飯田高校への訪問。生徒同士の交流だけではなく、石川県珠洲市地域(自治体、コミュニティ施設)へのヒアリングも実施(12月3～5日)</li> </ul> <p>&lt;1月上旬～下旬&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知見を含む成果報告まとめの作成。制作するコンテンツ等に関する打ち合わせを実施</li> <li>知見を含む成果報告まとめを配布</li> </ul>

事業目標・事業成果	
事業目標全般 (教育提供者側)	<p>■防災教育の提供者(採択団体等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校側の視座…和歌山県串本町内に立地する「県立串本古座高校」は町内唯一の高校である。本事業を通じて、高校生を“防災リーダー”として位置づけ、高校生が能登半島地震での“知と経験”を学び、串本町に持ち帰って地域内で展開することによって、地域全体の防災力向上を目標としている。</li> <li>・地元行政の視座…こちらも高校側の目的に近いが、地元住民が高齢化する中で、防災を牽引する・引っ張っていく人が少なくなっている。その一翼を地元の唯一存立する高校の高校生が担うことで、防災対策の担い手を拡げていくことを目的としている。</li> <li>・採択団体側の狙い…採択団体のきのくに活性化センターはこれまで“地域防災の実践”事業や高校との連携はターゲットとして来なかった。本事業を通じて、よりニーズの高い地域課題にコミットすることで、“防災”という地域課題の解決ノウハウを習得するとともに、高校生が活躍するまちづくりのプロデュースノウハウを得ることも目標としている。</li> </ul>
事業成果全般 (教育提供者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校の視座…今回は初めて1年生の生徒全員が能登地域を訪問し、能登半島地震の被災地である飯田高校並びに珠洲市を訪問することが出来た。訪問時には年度途中にも関わらず、学校側のカリキュラムを調整いただくとともに、訪問に向けた事前準備の時間を設けていただいた。改めて“高校生が地域の防災リーダー”であることを発信することが出来たのは、成果である。</li> <li>・地元行政の視座…地域協働訓練に地域住民と高校、行政などが一緒に訓練することが出来た。訓練の内容にもよるが、学校カリキュラムの中で実施することで、生徒が教わるだけではなく、教える側に立って運営することが出来ている。</li> <li>・採択団体側の狙い…きのくに活性化センターは地域のシンクタンクとしてさまざまな事業を展開してきたが、現在進めている①大学生の関係人口づくり、②JR きのくに線の活性化事業、③地域への政策発信に加え、4本目の柱として地域ニーズが高い「防災」にコミットする礎を築くことが出来た。</li> </ul>
事業目標全般 (参加者側)	<p>■防災教育の参加者(地域への波及効果、学生の理解度等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の視座…事業の目的から高校生には地域協働訓練による“実践的な防災力”を身につけてもらうとともに、串本古座高校生は地元で能登半島地震の“知と経験”を串本町民に伝える役割もあるので、飯田高校との交流において能登半島地震の“知と経験”に気付いてもらうことを目標としている。</li> <li>・地域住民…串本町は南海トラフ巨大地震による津波襲来の想定時分が短く、自治体としては住民と行動で避難道を整備するなどの取り組みを行っているが、一方で被害想定地域の住民が高齢化する中で、実際に発災した場合、避難への躊躇やあきらめを含む防災意識の低下が課題となっている。特に2025年7月30日のカムチャッカ地震は遠地地震ではあったものの、津波警報が発表されても「逃げない住民」が多く居たことは、そのひとつの表れであると考え。今回の事業を通じて、行政だけではなく、ある意味孫世代である“高校生”からの呼びかけや高校生が能登半島地震で学んだ“知と経験”を踏まえた呼びかけを通じて、ひとりでも“必ず避難する！”という町民を増やすことが目的である。</li> </ul>
事業成果全般 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の視座…串本古座高校生は飯田高校との交流において、五感を使った対面でしか感じられない“知と経験”を学ぶことが出来た。高校生の感想をまとめた場合、「避難訓練だけでは想定できない事象への対応力の重要性」「災害対策の基礎基本の徹底の重要性」「(災害関連)情報の伝わり方」「地域とのつながりの重要性(避難生活等)」「知るだけではなく、行動することの重要性」「能登半島地震を知っていたのは一部だけであったこと(報道には載らない事象等)」「災害の発生時期・季節による対応の異なり」である。</li> <li>・地域住民の視座…地域協働訓練に参加した地域住民の意見では、高校側が実施する「生徒による地域訪問型の津波避難意識調査」に協力するなど、さらなる地域と高校の防災に関する連携が行われている。高校生が学んできた“知と経験”の還元については、残された課題でも指摘するように、現時点では知見の冊子と動画の配布のメインが3月になったため、“必ず避難する”という意識醸成の取り組みへつなげていく必要がある。</li> </ul>
展開できる 知見やノウハウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の事業では高校との連携、高校生を“防災リーダー”に位置づけることが特徴的であったと考える。防災の担い手という視点も重要であるが、「若手世代からの呼びかけ」を通じた新しいアプローチという方法は、他地域でも応用可能である。</li> <li>・被災地での“知見や経験”の発信において、「動画」コンテンツを導入したことも、他地域に展開可能であると言える。発信では専門のライターを入れることで冊子を読み物のようにすること、冊子だけに留めるのではなく映像を含めた「動画」を導入することで、敷居を低く、手に取りやすく・目に留まりやすいことを目指した。</li> </ul>



<p>コミュニティ防災教育の重要な観点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先述もしているが、地域の若者である高校生を“防災リーダー”に位置づけることが重要であると考える。防災の担い手という視点だけではなく「若手世代からの呼びかけ」を通じた、多世代協働が重要であると考えている。</li> <li>・今回のコミュニティ形成を進めるにあたり、高校との連携においては、多分に高校側に取り組趣旨を理解いただく必要がある。本事業では串本古座高校、飯田高校の両校に多分にご理解・ご協力をいただき学校内カリキュラムとの調整をいただいたが、ここは事前のキーパーソンとの関係性や事業(他の学校関係の事業)における実績や関係性という“基盤”が重要である。</li> </ul>
<p>残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には事業を進めることができたが、事業内容④の「知見の冊子・動画の配布」のところが、本事業期間(～1月末日)においては関係者共有で留まっているところが課題である。年度内である3月中旬に串本古座高校で計画されている「学習発表会」の機会があるので、その場面で「動画と冊子」のお披露目を行う予定である。</li> <li>・地域住民への「冊子の配布」については、その配布方法の工夫も課題である。事業のところで後述するが、冊子については単なる「配布」に留めず、「地域住民と高校生」の対話のツールとしてまで高めておき、次年度以降の学校や地域の取り組みでも活用いただけることが理想である。</li> <li>・また、受け取った冊子、視聴いただいた動画によって、考え方・行動に変容が起きたのか。この変容に関する評価、ならびに調査についても、課題として残っている。</li> </ul>

■事業内容

事業内容① 地域協働防災訓練の実施	
事業内容①目標 (提供者側)	<p>■防災教育の提供者(採択団体のノウハウ蓄積等の目標を記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本訓練のメニューについては基本的に串本古座高校の生徒が運営する。この運営を通じて、発災時の“減災力を高める”とともに、実際の避難所運営の体験、簡易トイレ・ベッド・担架の作成を通じて災害時の実践対応力を養うことを目的としている</li> <li>・本訓練に地域住民と参加し、協働することでコミュニティ全体の防災力の向上、特に顔の見える関係をつくる。</li> </ul>
事業内容①目標 (参加者側)	<p>■防災教育の参加者(地域への波及効果、学生の理解度等の目標を記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本訓練は時間をブロックにして運営している。教育を提供する串本古座高校の生徒が、別の時間では参加者になることで、「教える人-教わる人」の固定的な役割に留めていない。方法としては社会教育的に“それぞれの学び合い”を目指している。</li> <li>・地域住民には、高校生が提供するプログラムに参加いただくことで、実際のノウハウを学習してもらうことを狙いとしている。</li> </ul>
事業内容① 実施内容:実践型 訓練(体験型) (実施日:11/10)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>体験型訓練については、炊き出し訓練、土のう作り体験、防火訓練、避難所運営体験(受付・誘導)、簡易担架作成、折り畳み簡易トイレの作成、パーティション(テント型)の作成、煙体験、段ボールバットの作成、を行った。</p> <p>■成果(提供者 or 参加者)</p> <p>提供は主に高校生で、参加者はブースなどを担当しない高校生、飯田高校生、地元住民である。これらの取り組みは実際に発災した場合に対応するものばかりで、実践的な力を学ぶ機会として、それぞれの運営方法・設置方法などを学習した。</p> 
事業内容① 実施内容:飯田高校による発表(座学型) (実施日:11/10)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>石川県立飯田高校生が能登半島地震の際の避難の現状や困ったこと、復旧までのプロセスについて発表があった。</p> <p>■成果(提供者 or 参加者)</p> <p>提供者は当時の現実を振り返りながら語り、参加者は当時のリアルな状況を聞いて、来るべき南海トラフ巨大地震発生時の対応について対策を考えていた。地域住民の参加者は、コミュニティの現実について意見交換を行い、高校生同様に今後の地震対策について今一度確認を行っていた。</p> 
事業内容① 実施内容:飯田高校と串本古座高校同士のワークショップ (実施日:11/10)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>石川県立飯田高校生と和歌山県立串本古座高校の生徒同士のワークショップがあった。特に能登半島発生地震時に若者目線で困ったこと(スマホがまったく通じなくなったことなど、生活に即した課題や現状について意見交換を行った。</p> <p>■成果(提供者 or 参加者)</p> <p>提供者は当時の現実を振り返りながら語り、参加者は当時のリアルな状況を聞いていた。発災した場合は生活の関係上“二次避難”が現実になることを受け止めていた。</p> 

<p>事業内容①を実施 する中で発生した 課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 高校生を主体とした運営に偏ってしまったがゆえ、地域の方が主となる取り組み(何か訓練を提供する側)を実施することができなかった。</p>
<p>事業内容①を実施 する上で工夫した 点</p>	<p>本訓練は時間をブロックにして運営しているので、ランダムに複数の体験を受講することが出来た。</p>
<p>事業内容① 残課題等</p>	<p>・今回の訓練会場は高校が軸になっているが、近くには地域が運営する津波避難ビルもあるので、その部分も会場にすることが今後の課題である。 ・ちょうど町の総合防災訓練が終わった直後のタイミングであったため、住民の参加が少なかった。学校の授業時間やカリキュラムとの調整があるが、開催タイミングや時期は課題である。</p>
<p>事業内容② 高校生同士の交流(能登)</p>	
<p>事業内容②目標 (提供者側)</p>	<p>■防災教育の提供者(採択団体のノウハウ蓄積等の目標を記載) ・“高校生防災リーダー”の核になる高校生が実際に被災地を訪問することで、観念的な思考ではなく、リアルな現実を踏まえた、特に当事者本人からの意見を聞くことで、高校生自身の問題意識の精緻化を目的としている。</p>
<p>事業内容②目標 (参加者側)</p>	<p>■防災教育の参加者(地域への波及効果、学生の理解度等の目標を記載) ・高校生が机上の“防災学習”にとどまらず、“対面での交流”による学習以外の気づきや雑談を通じた気づきを感じ取ってもらうことを目的としている。 ・その上で、被災地での交流による“知見や経験”を受け止め、実際に自身が生活する串本町への展開ができるような力量を持ってもらうことを狙っている。</p>
<p>事業内容② 実施内容:飯田高 校と串本古座高 校の高校生同士の交 流 (実施日:12/4)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 石川県立飯田高校生と和歌山県立串本古座高校の生徒同士のワークショップがあった。参加した1年生全員(欠席者除く)同士が能登半島発生地震時に若者目線で困ったこと(避難生活のリアル、まわりを助けるために何をするのかなど)、について意見交換を行った。 ■成果(提供者 or 参加者) 提供者は当時の現実を振り返りながら語り、参加者は当時のリアルな状況を聞いていた。ワークショップ形式で互いに発言を積み重ねながら交流できた。</p> 
<p>事業内容② 実施内容:珠洲市 役所職員と串本古 座高校の高校生同 士の交流 (実施日:12/4)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 和歌山県立串本古座高校の生徒と珠洲市役所職員との意見交換があった。能登半島地震発生時の行政の対応や避難所運営等について報告があり、その後学生側からの質問を踏まえ、交流を行った。 ■成果(提供者 or 参加者) 提供者は当時の現実を振り返りながら語り、参加者は当時のリアルな状況を聞いていた。</p> 

<p>事業内容② 実施内容:地域コミュニティの場と串本古座高校の高校生同士の交流 (実施日:12/4)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 珠洲市の公衆浴場である「あみだ湯」は能登半島地震後に地域住民や域外から来た災害ボランティアを支援している。まさに地域コミュニティの拠点となったあみだ湯と和歌山県立串本古座高校の生徒が、発災後の復興支援の状況、地域の状況について意見交換、交流を行った。基本はインタビュー形式での交流を行った。</p> <p>■成果(提供者 or 参加者) 提供者は当時の現実を振り返りながら語り、参加者は当時のリアルな状況を聞いていた。</p>	
<p>事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>交流時期が12月初旬になったが、当日は寒波が襲来する日程となった。学校同士のスケジュールによって同時期になったが、バスの時間が遅れることがあり、高校生の昼食時間の短縮化と地域訪問ポイントの削減を行った。</p>	
<p>事業内容②を実施する上で工夫した点</p>	<p>高校生同士の交流だけではなく、チームは分散したものの、珠洲市役所や地域のコミュニティの場との交流ができるように3か所の場所を設定した。</p>	
<p>事業内容② 残課題等</p>	<p>想定はされていることであったが、紀伊半島と能登半島の距離的な制約が高い。しかし、オンラインだけでは「五感を使ったリアルな体験と交流」が出来なかったことから、訪問は必須である。となれば、学校側の制約を乗り越えるという前提で、交流時間の確保のための旅程増は乗り越えたい課題である。</p>	
<p>事業内容③ 知見の冊子・動画化</p>		
<p>事業内容③目標 (提供者側)</p>	<p>■防災教育の提供者(採択団体のノウハウ蓄積等の目標を記載) ・今回、能登半島地震のリアルな知見と経験について、地域住民へ発信することを目的としている。 ・今回の協議会ネットワークに「広告・PR 会社」に入っていたいただき、単なる成果の発信だけに留まらず、「読み物」的な冊子・動画に編集させることを目指した。</p>	
<p>事業内容③目標 (参加者側)</p>	<p>■防災教育の参加者(地域への波及効果、学生の理解度等の目標を記載) ・今回は知見と動画を大学や学校だけで編集せず、「広告・PR 会社」の専門性を活用することにより、「見やすさ」を追究しつつ、学校側の負担の軽減を目指した。 ・できる限り地域住民側が敷居低く、能登半島地震の経験から事前に備えておくことを学習できるように、シンプルで見やすさを第一にした「冊子」と「動画」を目指した。</p>	

<p>事業内容③ 実施内容:知見の冊子化 (実施日:1/31)</p>	<p>■具体的な取り組み内容&amp;成果 串本古座高校生が学習した能登半島地震の“知と経験”だけではなく、飯田高校生からのメッセージを付け加えた冊子を作製した。</p>	
<p>事業内容③ 実施内容:知見の動画化 (実施日:1/31)</p>	<p>■具体的な取り組み内容&amp;成果 串本古座高校生が学習した能登半島地震の“知と経験”だけではなく、飯田高校生からのメッセージを付け加えた冊子を作製した。</p>	
<p>事業内容③を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>今回の「冊子」「動画」化においては、串本古座高校生と飯田高校生の交流機会だけではメッセージ性に欠けるとの動画における編集判断から、急遽「高校生自身からの直接のメッセージ」を追加した。この際、多分に高校の皆さんの理解・協力を得た(出演いただく学生の推薦など)</p>	
<p>事業内容③を実施する上で工夫した点</p>	<p>知見の冊子化・動画化の工夫の方向性については「目標」部分で記載したが、作成経過中でのさらなる工夫は上述したように、動画においての「高校生自身からの直接のメッセージ」追加するとともに、「被災地側の飯田高校生からのメッセージ」の加える工夫を行った。編集時には「広告・PR 会社」に任せすぎることなく、協議を重ねた。</p>	
<p>事業内容③ 残課題等</p>	<p>現時点では、特に作成における課題などはありません。</p>	
<p>事業内容④ 知見の冊子・動画の配布</p>		
<p>事業内容④目標 (提供者側)</p>	<p>事業内容③で作成した被災地の高校生と未災地の高校生の学びから導き出される「防災に関する知見」について「冊子」と「動画」にまとめて串本町に配布をし、知見を“見やすく”“ハードルを低く”還元することを目的としている。</p>	

<p>事業内容④目標 (参加者側)</p>	<p>受け取った側(地元住民)がより関心を持って災害を「自分ゴト」として受け止められることを狙いとしている。</p>	
<p>事業内容④ 実施内容:成果冊子の共有 (実施日:1/31)</p>	<p>■具体的な取り組み内容&amp;成果 高校生の交流によってまとまった防災に関する知見の冊子データを共有</p>	<p>特になし</p>
<p>事業内容④を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>「残課題」でも指摘するが、冊子・動画の作成に時間がかかったため、報告書提出時点では関係者との共有に留まっている。</p>	
<p>事業内容④を実施する上で工夫した点</p>	<p>特に無し</p>	
<p>事業内容④ 残課題等</p>	<p>単なる「配布」に留めず、「地域住民と高校生」の対話のツールとしてまで高めておき、次年度以降の学校や地域の取り組みでも活用いただけることが理想である。 「動画」については、高校生や地域住民と一堂に会して共有するため、3月中旬に学校で計画している「学習発表会」の時間を活用して、公開を予定している。「冊子」についても同時に提供を開始する。</p>	